

講義名	基礎技能 A (数的処理) / 基礎技能 B (数的処理)			授業形態	
担当教員	川合 宏之	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 2 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

ビジネス社会では複雑な計算や大量のデータ処理にコンピュータを用い、多数のデータの中から役立つ情報を適切に読み取り、計算処理や論理的思考により分析し、様々な意思決定を行う。そのための数的処理能力は不可欠である。
本講義では、民間企業において入社試験の1つとして、多くの企業で活用されている「SPI 試験」の対策の立て方を学ぶ。文系の学生が苦手意識を持ちやすい非言語分野を中心に頻出問題・必出問題についての基本的な解法パターンを学ぶ。自分の志望企業で社会人としてのスタートを切るためにも、民間企業就職を希望する学生の履修を勧める。

到達目標

- 基本的な計算処理及び論理的思考を理解し、数的問題の解を得ることができる。
- 出題範囲を知り、基本的な解法パターンを身につけることができる。
- 得意分野と苦手分野を把握し、苦手意識を払しょくすることができる。

提出課題

毎回、演習課題を与えるので、能動的に演習し数的問題の解を求めること。また、授業中に完成できなかった演習課題は、次回までに完成させておくこと。そして、次項に示す「準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間」に示した主体的学習を期待する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業内で実施した演習課題等の解答・解説を行う。これにより自己採点と復習を可能とする。

評価の基準

プリントの課題（60%）、毎時の授業への参加度・積極性（40%）により総合的に評価する。

履修にあたっての注意・助言他

- 授業は、毎回教科書を使用して進められる。必ず教科書の購入が必要である。
- 試験期間に試験は行わず、成績は授業期間内で全て評価される。

教科書

.SPI(非言語分野) 基本マスター	株式会社ワークアカデミー	株式会社ワークアカデミー	1320		
--------------------	--------------	--------------	------	--	--

参考図書

.なし					

その他

必要に応じて授業の中で紹介する。

授業計画

- 第 1 回 数的処理の概要及び数学基礎（受講ルール、方程式等の数学基礎、就職試験との関わり等）
- 第 2 回 方程式（文章題の計算、方程式、数列等）
- 第 3 回 割合（元の量、比べる量、割合、比率等）
- 第 4 回 利息（元金、元金、利息、利息率、割引率等）
- 第 5 回 仕事算（仕事の量と仕事の分、仕事時間の計算等）
- 第 6 回 濃度算その 1（全体量と当該物の量、濃度表、簡単な濃度計算等）
- 第 7 回 濃度算その 2（各種濃度計算等）
- 第 8 回 速度算その 1（時間・距離・速度、速度変化、時刻表等）
- 第 9 回 速度算その 2（旅人算、追いつけ算、流水算、通過算等）
- 第 10 回 順列・組み合わせ（総列、円順列、組み合わせ等）
- 第 11 回 確率（確率、コイン問題、サイコロ問題、くじ引き問題等）
- 第 12 回 命題（命題、対偶、三段論法等）
- 第 13 回 集合（集合、条件、グループ分け、キャロル表、線分図等）
- 第 14 回 資料の読み取り（表・グラフの読み取り、各種グラフの選択等）
- 第 15 回 学習のまとめ（既習事項の要点整理）

- * 受講者数や状況に応じて講義内容やスケジュールは変更される可能性がある。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・講義前に教科書の該当部分を読んでおくこと。（約1.0時間）
- ・講義後は内容を復習し、確認演習に取り組みことで、理解度を確認しておくこと。（約3.0時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目は、「気づきの教育」の一環として、自ら気づくことに資する科目である。本科目は、ビジネス社会で必要とされる、多数のデータの中から役立つ情報を適切に読み取り、計算処理や論理的思考により分析し、様々な意思決定を行う数的処理能力を身につけることができる。それによって、本学の教育の目標である「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」の育成を達成する。さらに、学生が苦手意識を持ちやすい就職試験（SPI非言語分野）の問題について、得意分野と苦手分野を把握し、苦手意識を払しょくし、就職力を高めることにつながる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

上記の授業担当者：株式会社ワークアカデミー専任講師